メナード

肌の遺伝子検査と肌分析を融合した新サービスを始動

日本メナード化粧品は2月21日、肌の遺伝子検査と現在の肌分析を融合したハイブリッド発想で、顧客がなりたい肌への近道を導き出す、12項目の肌の遺伝子検査と、4項目の角質細胞分析、AIを用いた15項目の現在の肌分析からなる美容アドバイスサービス「Ｇｅｎｅ Ｌａｂ（ジェネラボ）」を開始する。

遺伝情報は生涯変わることがないため、個々の肌の性質に関わる遺伝子と現在の肌状態を検査するためのキット「ジェネラボ 遺伝子検査キット〈美肌〉」（1万1000円）については1回限りのサービスとして展開する。なお、遺伝子検査キットは全国のメナードのお店、ビューティアドバイザーに加え、同社初のEC特別サイトで販売する。

また、今回の遺伝子検査サービスと連動した化粧品として、パーソナルな美容液「ジェネラボ エッセンス」を発売する。「なりたい肌」で選ぶ美容液「エッセンスA」（全6種各30mL・1万3750円）と、AIが「検査結果」からおすすめする美容液「エッセンスX」（全6種各30mL・1万3750円）の2種類を用意している。ローズ、ジャスミン、ミュゲなどのフローラルブーケに、フレッシュで心地よいハーバルグリーンノートでアレンジし、落ち着いたウッディノートでまとめ上げた、フローラルブーケ・ナチュラルな香りを採用している。

利用者は、まず近隣店舗やビューティアドバイザー、Webサイトを通じて検査キットを購入し、顧客自身で検査申込準備を完了してポストに投函すると、総合研究所や名古屋大学 メナード協同研究講座で検査が行われ、約2カ月後に「結果報告&アドバイスBOOK」1冊（A4・34ページ）、「ジェネラボ エッセンス提案チラシ」1枚（A4両面）が届く。

その後、近隣の店舗への来店またはビューティアドバイザーの訪問のどちらかを選択し、美容のプロに自身の現在の肌状態を測定してもらい、遺伝子検査結果と現在の肌状態を総合した結果を踏まえた形で、美容のプロより美肌アドバイスAIを通じた的確なアドバイス（スキンケア、食生活、サロンケア、ジェネラボ エッセンス、その他の化粧品など）を受ける。

遺伝子検査と現在の肌分析結果をAI技術により総合的に分析・判定

同社では、一人ひとりが生まれ持った肌の性質を知ることで、よりその人の肌に合った美容の提案が可能になると考え、遺伝子をターゲットにした研究を30年以上続けている。2013年には名古屋大学大学院医学系研究科に名古屋大学メナード協同研究講座を開設し、最先端の設備を活用して個人の遺伝情報を解析する技術をレベルアップさせ、約1800人の日本人のゲノム（遺伝情報）データから、肌質に関する新たな遺伝子領域を発見した。その成果を応用し、遺伝子レベルから肌の性質を解析する技術を開発した。また、これまで長年積み重ねてきた皮膚科学研究により、現在の肌状態を分析する技術も確立している。

今回は、これらの技術を活かし、顧客のなりたい肌に応えるため、パーソナルな情報である遺伝的な肌の性質と現在の肌状態の分析結果を融合させ、ハイブリッド発想の美容アドバイスサービスを新たに開発した。

私の H＆B 日記

AI燦燦

会合やイベントの檀上で原稿を手に挨拶を述べていた初老の男が、原稿から顔を上げて最後、得意気にこう語る。この挨拶原稿は生成AIで作成しました――。このオチをつけた後、一瞬だけ間を置いて、会場は笑いに包まれる。この一瞬の間はおそらく、次のような説明がつくのではないか。

名前も顔も実はよく知らないが、こんなに大勢の前での挨拶を依頼されるくらいのお偉方というバイアスがかかっているため、壇上の男の言動がすぐには理解できない（信じがたい）、目が点になった瞬間であり、その瞬間を持って理解した時に面白さが助長される。もちろん、その場に居合わせた私の笑いには、AI挨拶とはつゆ知らず、お偉方の挨拶冒頭から真摯に耳を傾けて首肯していた自分の恥ずかしさを隠したいという要素も含まれているのだが……。このように全て白状したくなるのも、AIの全知全能性がもたらす業なのかもしれない。

さて、私がAI挨拶オチに初めて出合ったのは昨年の今頃だったと思う。「お偉方×最包」の組み合わせに、オシャレかつユーモアさを強く感じ、機会があれば必ず使おう。そう心に誓ったのだが、その機会が訪れることは一向になく、むしろ出席する会合で類似のオチを聞いてばかりである。今では挨拶で登壇者が紙を取り出した瞬間、もしかしたら生成AIオチではないかという脳内回路ができてしまっているのだが、それはさておき、AI挨拶オチを手放しで笑えている状況を俯瞰的に捉えてみると、安堵や不安など色々な感情がないまぜになってくる。

企業の生成AI活用が広がり、挨拶原稿はもとより定型業務を全てAIが行う。AI機能付きのスマホが普及してAIと共にする生活に慣れる。広義でAIを捉えれば可能性の広がりにワクワクするが、狭義の個人的な関わりとなった途端に不安や焦燥に駆られる。最近読み終えた、AIの広がる世界を描く小説もディストピア的要素が強かった。（菅）

小林製薬

豊田執行役員が社長に昇格

山根社長は退任、新設の研究開発、医療・医薬の取締役に松嶋氏

小林製薬は、1月21日に開いた記者会見で、山根聡社長が退任し、豊田賀一執行役員国際事業本部長が代表取締役社長に昇格する人事を発表した。

豊田社長

豊田氏は1964年8月22日生、60歳。1987年入社で、国内営業からスタートし、2006年から現在まで国際事業に携わってきた経歴を持つ。また、取締役会長には京セラや日本航空などの企業経営に携わった経験のある大田嘉仁氏が就任する。

新体制は3月に開催する定時株主総会を経て決定する予定だ。過半数を社外取締役とする取締役会の構成を維持しつつ、取締役候補の選定では各取締役のスキル・マトリックスのあり方を深耕したという。

取締役のスキル・マトリックスには、企業経営、グローバルビジネス、組織マネジメント・人材開発、ESG・サステナビリティ、マーケティング・営業、財務・会計、法務・リスクマネジメント、DX・ITデジタルに加え、新たに「研究開発」と「医療・医薬」を設置する。

新設する研究開発は、松嶋雄司執行役員研究開発本部長が取締役に昇格して統制する。また、医療・医薬は松嶋氏ともう1名、社外取締役の候補者を調整中だという。なお、定時株主総会では、山根社長のほか、社外取締役の伊藤邦雄氏、佐々木かをり氏、有泉池秋氏の3名が退任予定となっている。

資生堂

次世代マイクロニードルを開発

「刺す」だけでなく「押す」機構も備え、圧倒的な肌改善効果をもたらす

資生堂は、美容医療に迫る高い効果と安全性を両立し、日常的に使用できる独自構造の次世代マイクロニードルを開発した。「注入」と「押圧」の2つの機能を備えた新しいアプローチで、皮ふを傷つけずに皮ふ浅層（角層を含む表皮）に有効成分を注入すると同時に、皮ふ深部（真皮以下）に押圧刺激を与えることができ、免疫・血管・コラーゲンなどの細胞外マトリクスに関連する遺伝子群の発現状態を変化させる。

これにより、表皮・真皮・血管を包括的に活性化し、たるみ・バリア機能・しわといった複合的な肌悩みを改善することが明らかになった。この技術により、理想の素肌美を日常生活の延長線上で、簡単・安全に手に入れることができるようになる。

理想の肌を実現する手段として近年では美容医療が一般的になり、化粧品にも高い効果を期待する声が高まっている。美容医療施術で人気を博しているマイクロニードルは、肌に微細な傷をつけ、薬剤の浸透を高めるとともに「創傷治癒」の反応を惹起し、皮ふ深部の構造を再構築して高い効果をもたらすとされている。一方で、治療による出血等を伴う侵襲的な側面もあることから、施術を受ける際の負担、不安感が課題だった。

同社は、高い効果と非侵襲性という背反事象を、従来の「刺す」機能だけでなく、「押す」という新たな機能を加えることで同時に叶える着想に至った。さらに、「搭載できる薬剤の種類や量が限定される」「針素材の安全性」「針が折れ曲がるリスク」といった課題を解決する独自の注入機構を創案し、「注入」と「押圧」による新しいケア方法で常識を塗り替えるべく研究を進めた。

ナイアシンアミド配合で、たるみ・しわ等の複合的肌悩みを改善

様々な形状のマイクロニードルを検討した結果、皮ふ浅層のみを精密に刺し、同時に皮ふ深部に押圧による圧刺激を効率的に与えることのできる形状パラメーターを見出し、最適化された形状の次世代マイクロニードルを開発した。

開発した次世代マイクロニードルは皮ふに薬剤を注入することが可能であり、薬剤の浸透性を評価した結果、ナイアシンアミドなどの水溶性薬剤の浸透量を有意に向上させるとともに、素早くより深くまで送達させることを明らかにした。

次世代マイクロニードルの「押す」効果は、皮ふ深部に圧縮刺激を与え、即時的に血流を促進することが明らかになった。また、次世代マイクロニードルを2日に1回の頻度で7日間使用し、皮ふ深部に刺激を与えることにより、免疫・血管・コラーゲンなどの細胞外マトリクスに関連する遺伝子群の発現を変化させ、皮ふを傷つけずに肌改善を促すことが示唆された。

ナイアシンアミドを配合した次世代マイクロニードルにて連用試験を実施した結果、通常の塗布と比較して、より短期間でのしわ・透明感の改善が認められた。また、顔の下半分の体積変化の評価を行った結果、次世代マイクロニードルにおいて、2週間後に顔の下半分の体積が有意に減少した。また、たるみグレードの有意な改善を確認し、8週間後にほうれい線がより浅く、短くなっていることを確認した。加えて、経表皮水分蒸散量（TEWL）を評価した結果、次世代マイクロニードルは、バリア機能を破壊せず、むしろバリア機能を改善することが明らかとなった。

図上 独自構造の次世代マイクロニードル（イメージ図）
図下 次世代マイクロニードルによりナイアシンアミドが素早くより深くまで送達される